

心に響いた「ことば」プレゼン

小倉南高文化祭 5作品競う

最優秀に選ばれた4組・今野花さんのチームに市村友一代表から表彰状が贈られた



折々のことばコン応募作もとに



ミュージカル仕立ての発表も

朝日新聞の「私の折々のことばコンテスト2019」に募集した作文をもとにしたプレゼンテーションクラスマッチが19日、北九州市の県立小倉南高校の文化祭「南薫祭」であった。動画をふんだんに使ったり、ミュージカル仕立てに

したりと工夫を凝らした5作品が競い合った。

本番の舞台に臨んだ。4組の今野花さんが選んだ言葉は、親への反抗心からわざと門限を破ったときにお母さんから言われた「自由と自分勝手は違う」。

準優秀の南薫会（同校同窓会）賞には、2組・鍋島向日葵さんの「空気をのめばおなかいっぱい」が選ばれた。幼いころ、空気で胃袋を満たせばおなかがいっぱいになると本気で信じ、友達に言いふらしていた言葉。当時の様子を動画で再現する一方、自分の言葉を「折々のことば」に選んだのが全191作品中、唯一で独創性があることや、幼い頃の思い出を大切にしていることに共感したことをサポートメンバーが力強く会場に訴えかけた。

このほか、化粧をしたときにおばあちゃんに言われた「かわいくない」の一言が、実は「ありのままのあなたが一番素敵」という愛情から来た言葉だったとい

う思い出をコミカルな映像作品に仕上げた5組・岩谷舞音さんのチームに技能賞、発表中の機材トラブルにも冷静に対応した3組・時枝志全さんのチームに殊勲賞、直前に発表用のデータを紛失しながらも全員で明るく乗り切った1組・宮

田愛都夢さんのチームに敢闘賞が贈られた。

朝日新聞の「私の折々のことばコンテスト2019」に募集した作文をもとにしたプレゼンテーションクラスマッチが19日、北九州市の県立小倉南高校の文化祭「南薫祭」であった。動画をふんだんに使ったり、ミュージカル仕立てに

つづった作文をもとに、なぜ、その「ことば」を選んだのかをプレゼンでアピールするのがねらい。2年生各5クラスであった予選を突破した代表5作品がこの日の決勝に進んだ。

プレゼンの規定時間は7分。作文を書いた本人を、同じクラスの数人がサポートする形でチームを組んで

5人の審査委員からはい

ずれも高い評価を得て、最優秀の朝日新聞社賞に選ばれた。審査委員長を務めた同社の市村友一・西部本社代表は「画面が見やすく、発表者も1人ずつ役割分担できていて完成度が高かつ

た」と講評した。

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。